様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年５月１０日現在

機関番号：１２３０１
研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2010～2012
課題番号：２２７９２１７２

研究課題名（和文）　前立腺全摘除術後患者のためのセクシャリティ尺度の開発

研究課題名（英文）　Development of sexuality scale for total prostatectomy patients

研究代表者
堀越　政孝（HORIKOSHI MASATAKA）
群馬大学・大学院保健学研究科・助教
研究者番号：80451722

研究成果の概要（和文）：前立腺全摘除術後患者におけるセクシュアリティー尺度の開発のために、がん患者のセクシュアリティーの全体像を把握する必要があった。まず,機能障害を持つがん患者に関する研究を概観し，直腸がん患者の機能障害に関する国内外における研究の動向と課題を検討した．更に，下部直腸切除術により生じた機能障害が,患者の生活に影響を及ぼしている内容を明らかにし,看護介入について示唆を得た.

研究成果の概要（英文）：I need to grasp the global image of a cancer patient's sexuality for development of sexuality scale for total prostatectomy patients. As the first step, I surveyed the research on a cancer patient with a functional disorder. To the next, I examined the trend and subject of research in and outside the country about a rectal cancer patient's functional disorder. In addition, this study clarified influences for patients' life by postoperative functional disorder of rectal cancer, and get suggestions for nursing.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	500,000	150,000	650,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	1,500,000	450,000	1,950,000

研究分野：医歯薬学
科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学
キーワード：前立腺がん、セクシュアリティー、セルフケア

１．研究開始当初の背景

本邦において前立腺がんの罹患率は、2003 年の時点で胃がん、肺がんに次いで全部位中 3 位となっている。その罹患数の増加は著しく、罹患率の予測では 2020 年に 78,468 人となり、肺がんに次いで男性がんの 2 番目になると言われている。勿論、今後の医療技術の発展により、少なからず誤差が生じてくるものと考えるが、現実的に考えても増加予測に対し異論はない。そして、既に現時点においても罹患率の高いがんであると言える。

また、前立腺がんは男性特有の疾患であり、手術療法によっては、二次的に尿失禁や性機能障害が生じるため、セクシュアリティーに多大な影響を及ぼす。手術療法を行った場合、尿失禁は必ず現れるが、多くの場合は術後改

善がみられる。一方、性機能障害については、神経血管束を温存した場合でも、高確率で出現する。性機能障害による影響は、身体面や自尊心といった限局された部分のみならず、心理社会面的な範疇の要素を含んだ包括的な自己概念にまで及ぶ。それをセクシュアリティーと捉える。本邦の看護界においては、セクシュアリティーについて、多くは言及されていない。特に男性のセクシュアリティーに関しては、希有であると言える。その理由として、歴史的背景や日本人男性特有の気質など、様々な要因が複雑に絡み合っていることが考えられる。日本人男性のセクシュアリティー概念は、現状において曖昧である。

2000 年に PAHO(Pan American Health Organization) と WHO(World Health Organization)は、WAS(World Association for Sexolog)と共同して、セクシュアリティーの概念に関して次のようにまとめている。「セクシュアリティーとは、人間の中核的特質の一つであり、セックス、ジェンダー、セクシャル・ジェンダーアイデンティティ、セクシャル・オリエンテーション、エロティシズム、感情的愛着または愛、そして生殖を含んでいる。セクシュアリティーは、思考、空想、欲望、信念、態度、価値、活動、習慣、役割、関係性の中で経験され、表わされる。セクシュアリティーは、生物学的、心理学的、社会経済的、文化的、倫理的、そして宗教的または霊的な要因による相互作用の結果の一つである」。この概念枠組みに則ると、セクシュアリティーは人種、性別、社会的立場などにより様々な形を持つと考えられ、日本人男性においても特有のセクシュアリティーが存在する可能性が高い。

以上より、まずは日本人男性がん患者のセクシュアリティーを含む機能障害の全体像を明らかにする必要がある。そのため、前立腺がん患者だけでなく、同様に機能障害を起こす直腸がん患者にも焦点を当て、機能障害の実態と生活への影響を明らかにしていく。その結果を踏まえることで、文化的背景に則った日本人特有のセクシュアリティーを包括的に捉えられる実用的な尺度を開発することができる。また、がん患者における精神的な援助モデルを構築することにも繋がると考える。

２．研究の目的

1)前立腺がん患者のセクシュアリティーに関する看護系論文を分析し、その動向と課題を検討する。
2) 直腸がん患者の機能障害に関する看護系論文を分析し、その動向と課題を検討する。
3)下部直腸切除術により生じた機能障害が、患者の生活に影響を及ぼしている内容を明らかにする。

３．研究の方法

1) 前立腺がん患者のセクシュアリティーに関する看護系論文

(1)研究対象

データベースは、国内は医学中央雑誌、Cinii を、国外は PubMed、CINAHL を用いた。検索用語は、国内は“前立腺がん”、“性”とし、看護、原著論文で制限をかけた。一方、国外は“prostate cancer”、“、sexuality”とし、 English と Nursing Journals で制限した。

(2)データ分析方法

国内外双方の抽出した論文をハンドサーチし、研究デザイン、方法、内容の分析を行った。内容については、質的帰納的に分析した。

2) 直腸がん患者の機能障害に関する看護系論文

(1)研究対象

1992－2011 年の間に国内外で学術誌に掲載された論文を対象とし、データベースは、国内は医学中央雑誌､Cinii を､国外は PubMed、CINAHL/MEDLINE を用いた。検索用語は、国内は“直腸がん”、“(機能) 障害”とし、看護、原著論文で制限をかけた。一方、国外は“rectal cancer”、“disorder”とし、English と Nursing Journals で制限した。類似概念も検索し、オストメイトを対象とした論文は除外した。

(2)データ分析方法

抽出した国内外双方の論文をハンドサーチし、研究方法、デザイン、研究時期、内容の分析を行った。内容については、質的帰納的に分析した。

3) 下部直腸切除術により生じた機能障害が、患者の生活に影響を及ぼしている内容

(1)研究対象

下部直腸がんにて直腸切除術を受け、術後 6 ヶ月以上経過している 40-70 歳代男性患者とした。一時的ストーマ造設の有無は問わなかったが、ストーマ造設をした者については、ストーマ閉鎖後 6 ヶ月以上経過している者とした。

(2)データ収集方法

半構成的面接を行い、術後から現在に至るまでに抱えた機能障害の内容と、その機能障害が生活に及ぼす影響の内容について自由に語ってもらった。

(3)データ分析方法

面接の逐語録をデータとし、質的帰納的に分析した。 抽出した文章は、1 文脈単位に分けて記録単位とし、意味内容の類似性に従い抽象化したものを説明概念、説明概念を更に抽象化したものを概念とした。

(4)倫理的配慮

本研究は、Ｂ大学医学倫理委員会（臨床研究）の承認を得た後、実施した。

研究の同意を得る方法として、研究の主旨、協力の内容と方法について文書及び口頭にて説明した。参加同意書への署名をもって研究参加への同意が得られたとみなした。面接は、プライバシーの保てる個室で行った。面接内容については、対象者の承諾が得てＩＣレコーダーで録音した。話したくない内容については話さなくてもよいこと、途中で中止することもできることを説明した。また、面接・診療録・看護記録調査のデータは、データ収集の段階から匿名化し、収集したデータは研究以外の目的では使用しないことを説明した。

４．研究成果

1) 前立腺がん患者のセクシュアリティーに関する看護系論文

分析対象論文は、国内が 8 件、国外が 11 件であり、量的研究が 47.4%、質的研究が 42.1%、量質併用が 10.5%を占めていた。研究デザインは、因子探索研究が最も多く、52.6%と半分以上を占めていた。研究時期は、治療後が 61.9%と最も多く、治療中は 1 件(4.8%)のみであった。研究内容は、セクシュアリティーを排尿機能などと並列で扱い、身体状態や QOL の一部として捉えて、研究対象としているものが半数以上であり、セクシュアリティーを単独で対象としているものは 3 件(15.8%)であった。その他は、パートナーとの相互作用として捉えているもの等であった。

以上の結果より、前立腺がん患者におけるセクシュアリティーの研究は、国内外共に希薄であり、量質双方の充実が求められることが示唆された。また、セクシュアリティーは、そのもの自体に身体的、心理社会的といった様々な問題が含有され、派生していくにも関わらず、多くの研究において、身体状態や QOL の一部として捉えられており、焦点化されている研究は少なかった。今後は、前立腺がん患者のセクシュアリティーの概念枠組みを明確にし、測定尺度の開発を進め、介入研究が積み重ねられていくことが望まれる。

2) 直腸がん患者の機能障害に関する看護系論文

分析対象論文は、国内が 8 件、国外が 5 件であり、量 53.8%、質 30.8%、量質併用 15.4%であった。研究デザインは、因子探索研究と関連検証研究が最も多く、それぞれ 30.8%であった。研究時期は、治療後が 92.3%であり、7.7%は治療前後であった。研究内容は、障害内容や影響する事象に着目し分析した結果、“生活の実態・影響・対処”が 46.2%と一番多く、次いで“排便障害評価尺度開発”、“排便障害に対する看護介入の効果”、“他部位がんとの QOL 比較”が同数(15.4%)であり、“排便障害と自尊感情の関係”は 1 件(7.7%)のみであった。

直腸がん患者の機能障害に関する研究は、20 年間で 20 件に満たない状況であり、生活上の問題内容や排便障害に限定した内容が多くを占めていた。今後は、直腸がん患者が抱える問題内容をより広義に捉え、障害の受容プロセスなどを明確にし、看護支援の充実に向けたエヴィデンスを積み重ねていくことが望まれる。

3) 下部直腸切除術により生じた機能障害が、患者の生活に影響を及ぼしている内容

(1)対象者の概要

平均年齢は、63.7 歳(SD=7.6; range =46-72 で、術式は LAR(Lower Anterior Resection)が 5 名、ISR(Intersphincteric Resection)が 4 名であった。1 回あたりの面接の平均時間は、29.0 分であった。術後診断は、Stage ⅠａからⅢａであった。

(2)分析結果(表 1)

生活への影響内容として、122 の記録単位が抽出され、7 概念「生活パターンへの影響（排便パターンが定まらず、生活の時間調整ができない、 夜間、頻回にトイレに行き、十分な睡眠が取れない)」「仕事への影響(職場で頻回にトイレに行くため、人目が気になる、 商談中にトイレに行きたくなり、会話がままならない、 排便のコントロールができず、仕事自体ができない)」「外出への影響(排便のコントロールができず、外出先での行動が制限される、 移動中に何度もトイレに行かなくてはならない、 移動中のトイレを危惧し、遠出できない)」「趣味への影響(便が気になり、旅行に行けない、便が漏れるため、力を入れる趣味ができない、便が気になり、友人との交際が希薄になる)」「思考への影響(何をしていても、常に便の事が気になる、 パットを着けていないと不安である、排便を生活の中心に考える)」「セクシュアリティーへの影響(勃起しなくなり、男として寂しい感じがする、射精はできるが、満足感がない、女性になってしまったとさえ思う、勃起しなくなり妻に申し訳なく思う)」「安楽への影響(おならをすると便が漏れて下着が汚れて困る、 就寝中に便が漏れ、不快である、 下痢が頻回になり、肛門が荒れて痛い、パットを着けていると蒸れる)」が挙がった。これらの概念は、負の感情に裏付けされた説明概念によって、構成されていた。

(3)考察

下部直腸がん術後患者は、術後の機能障害により様々な生活上の問題を抱えていることが分かった。特に排便障害により、活動範囲が制限され、健全な社会生活が送れていな

い。また、自尊感情やセクシュアリティーといったパーソナリティーに関わる面にも影響を及ぼしている。排便コントロールや生活上の工夫等、術前からの問題状況を見越した継続的な介入が必要であることが示唆された。

表 1　直腸がん術後の機能障害が生活に及ぼす影響の内容

概念	説明概念
生活パターンへの影響	排便パターンが定まらず、生活の時間調整ができない
	夜間、頻回にトイレに行き、十分な睡眠が取れない
仕事への影響	職場で頻回にトイレに行くため、人目が気になる
	商談中にトイレに行きたくなり、会話がままならない
	排便のコントロールができず、仕事自体ができない
外出への影響	排便のコントロールができず、外出先での行動が制限される
	移動中に何度もトイレに行かなくてはならない
	移動中のトイレを危惧し、遠出できない
趣味への影響	便が気になり、旅行に行けない
	便が漏れるため、力を入れる趣味ができない
	便が気になり、友人との交際が希薄になる
思考への影響	何をしていても、常に便の事が気になる
	パットを着けていないと不安である
	排便を生活の中心に考える
セクシュアリティーへの影響	勃起しなくなり、男として寂しい感じがする
	射精はできるが、満足感がない
	女性になってしまったとさえ思う
	勃起しなくなり妻に申し訳なく思う
安楽への影響	おならをすると便が漏れて下着が汚れて困る
	就寝中に便が漏れ、不快である
	下痢が頻回になり、肛門が荒れて痛い
	パットを着けていると蒸れる

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 0 件）

〔学会発表〕（計 4 件）
1)堀越政孝, 二渡玉江.内肛門括約筋切除術後男性患者が抱える問題への反応.第 27 回日本がん看護学会学術集会.2013.02.16.石川県立音楽堂(金沢,石川県)
2)Masataka Horikoshi, Hiroko Chida,Tamae Futawatari. The impact of functional disorders on life after surgery for lower rectal cancer. 17th International Conference on Cancer Nursing. 2012.09.11. Hilton Prague Hotel(Prague,Czech Republic)
3)堀越政孝,千田寛子,二渡玉江.直腸がん患者の機能障害に関する国内外における研究の動向と課題.第 26 回日本がん看護学会学術集会.2012.02.12. くにびきメッセ(松江,島根県)
4)堀越政孝,二渡玉江.前立腺がん患者のセクシュアリティーに関する国内外における研究の動向と課題.第 25 回日本がん看護学会学術集会.2011.02.12. 神戸国際会議場(神戸,兵庫県)

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
なし

６．研究組織
(1)研究代表者
堀越　政孝（HORIKOSHI MASATAKA）
群馬大学・大学院保健学研究科・助教
研究者番号：80451722
(2)研究分担者
なし
(3)連携研究者
なし